

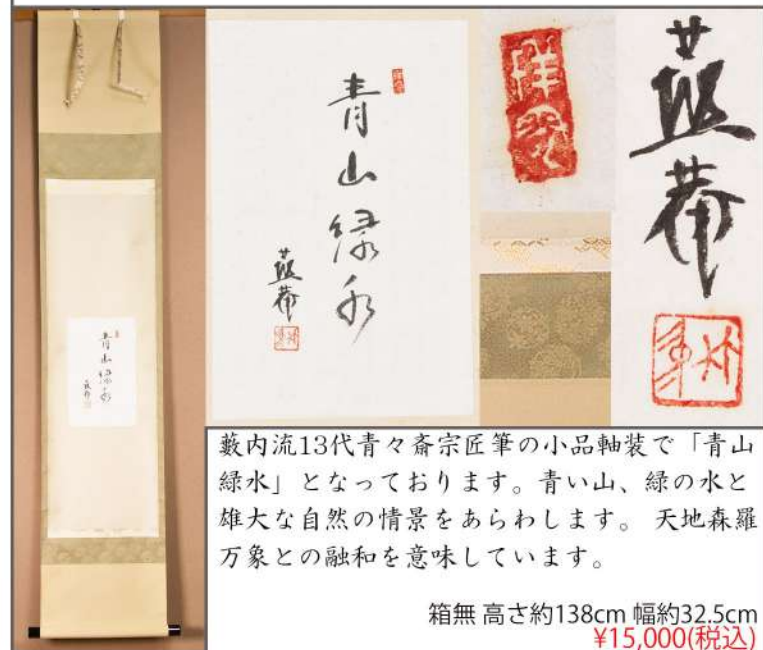
「行雲流水」 猗々斎筆



茄子画 岡田雪窓筆



「青山緑水」 青々斎筆



孔雀画 高橋秋華筆



「夏雲多奇峰」 猗々斎筆



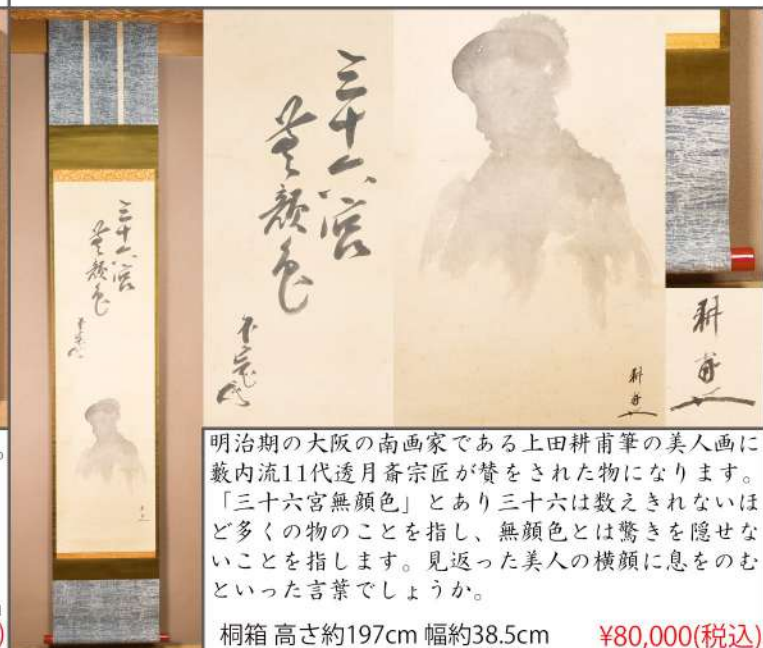
「東風一吟春」 藪内節庵筆



栗画讃「明」 猗々斎筆



美人画讃 透月斎筆 上田耕甫画



「朝に祈り夕に謝す」 透月斎筆



「瑞雲自去来」 猗々斎筆

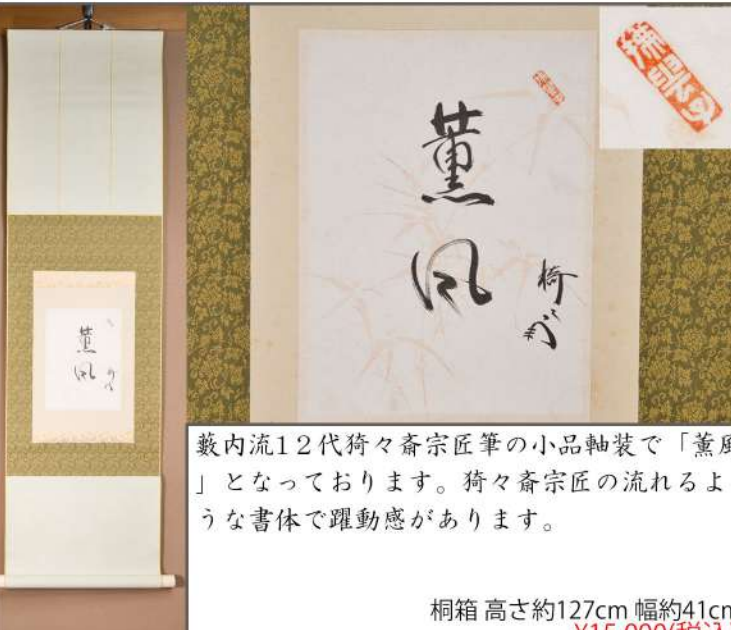


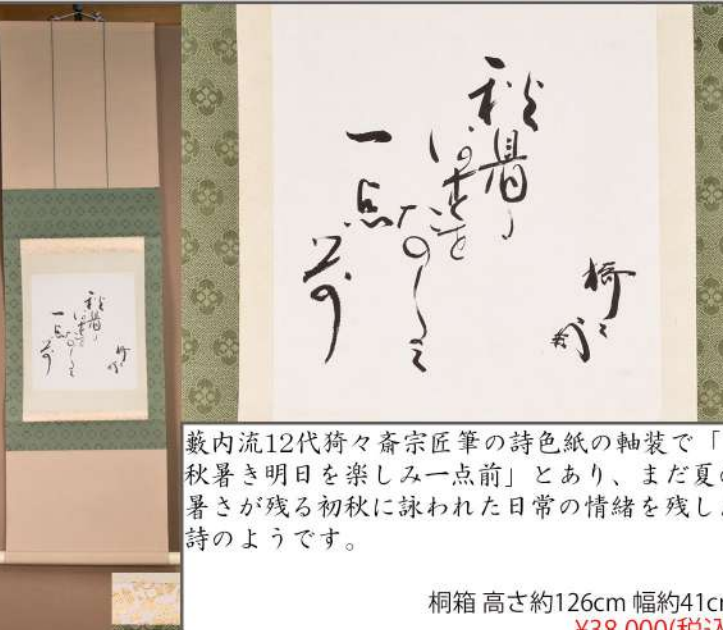
女郎花画讃「なびくなよ…」 透月斎筆



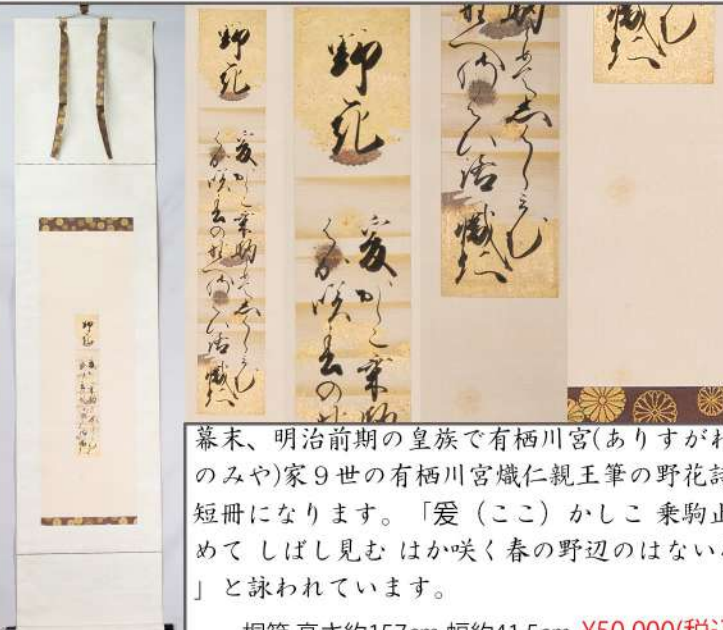
「柳緑花紅」 透月斎筆

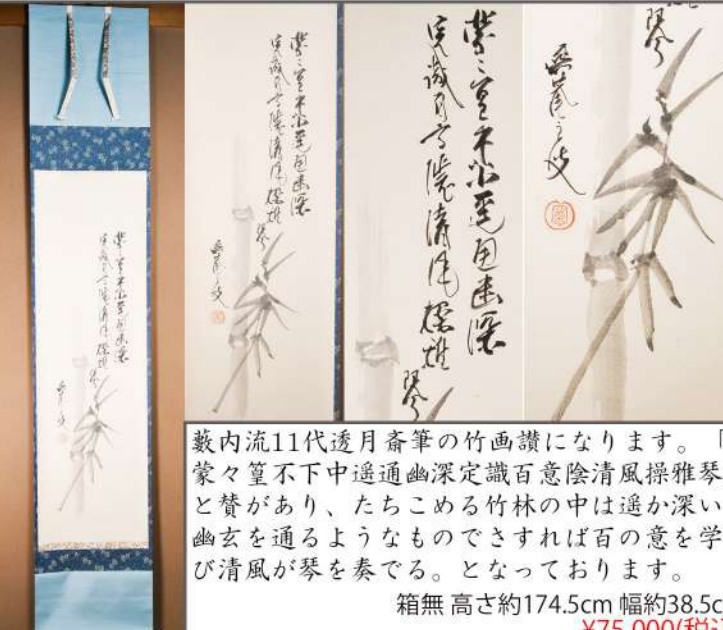


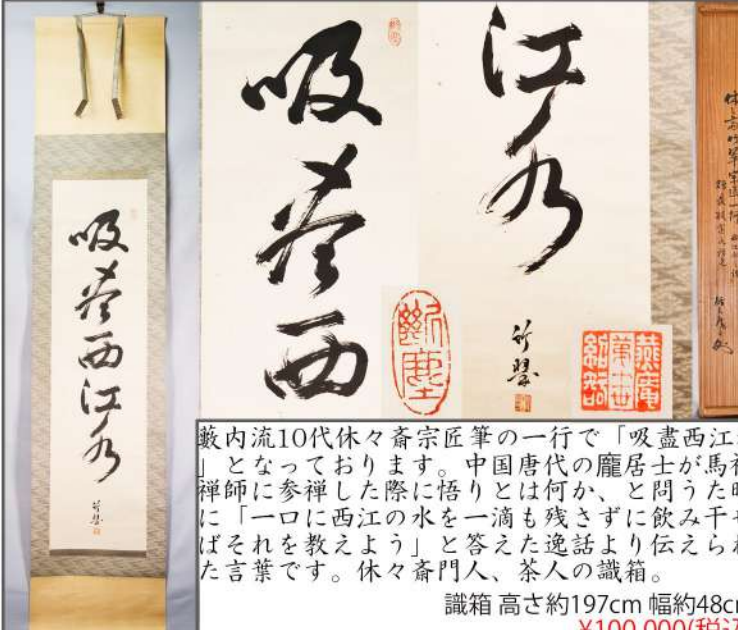
「薫風」 猗々斎筆  藪内流12代猗々斎宗匠筆の小品軸装で「薫風」となっております。猗々斎宗匠の流れるような書体で躍動感があります。 桐箱 高さ約127cm 幅約41cm ¥15,000(税込)	「本来無一物」 山田宗敏和尚筆  大徳寺塔頭真珠庵住職であった山田宗敏和尚筆の「本来無一物」になります。この言葉はもともと何一つない、執着すべきものがないという禅の言葉です。 共箱 高さ約168.5cm 幅約36cm ¥30,000(税込)
--	---

砧画讃 「月」 猗々斎筆  藪内流12代猗々斎宗匠筆の「月」の字に砧打ちの画讃になります。砧うちは布や紙を木槌で叩いて柔らかくしたり、光沢を出す作業のことで秋の夜長に月明かりの下で砧を打つ様子が寂寥感を感じさせる秋の風物詩として俳句や和歌に詠まれることが多いです。 桐箱 高さ約104cm 幅約49cm ¥35,000(税込)	「秋暑き・・・」 猗々斎筆  藪内流12代猗々斎宗匠筆の詩色紙の軸装で「秋暑き明日を楽しみ一点前」とあり、まだ夏の暑さが残る初秋に詠われた日常の情緒を残した詩のようです。 桐箱 高さ約126cm 幅約41cm ¥38,000(税込)
---	--

瀧画 狩野安信筆  江戸時代中期から後期にかけての狩野派の絵師である狩野安信筆の瀧画になります。狩野孝信の三男であり狩野探幽の弟になります。塗りの銀字行箱になります。 共箱 高さ約182cm 幅約35.5cm ¥100,000(税込)	「閑不徹」 江雪和尚筆  江戸前期の臨済宗の僧侶で沢庵宗彭、江月宗玩に師事した江雪宗立（こうせつそうりゅう）筆の横書で「閑不徹」となっております。この言葉は完全な静けさのことを指し、心の状態や悟りの境地を表す言葉としても用いられます。周囲に流されず、自分の中に静寂を保ち、信念を持って生きることも説いています。大亀和尚の識箱。 識箱 高さ約109cm 幅約62cm ¥150,000(税込)
--	--

「喫茶去」 青々斎筆  藪内流13代青々斎宗匠筆の「喫茶去」となっております。青々斎宗匠らしい勢いの良い字になります。軸の状態も良いです。 箱無 高さ約156cm 幅約29cm ¥40,000(税込)	野花 短冊軸装 有栖川宮熾仁親王筆  幕末、明治前期の皇族で有栖川宮(ありますがわのみや)家9世の有栖川宮熾仁親王筆の野花詩短冊になります。「爰(ここ)かしこ乗駒止めてしばし見む はか咲く春の野辺のはないろ」と詠われています。 桐箱 高さ約157cm 幅約41.5cm ¥50,000(税込)
--	--

松画讃 「颯々」 青々斎筆  藪内流13代青々斎宗匠筆の松画讃で「颯々」となっております。「颯々(さつさつ、さつさつ)」は、風がさわやかに吹く様、または人柄などがさっぱりと爽やかな印象を与えるさまを表しています。 桐箱 高さ約135.5cm 幅約46cm ¥25,000(税込)	竹画讃 透月斎筆  藪内流11代透月斎筆の竹画讃になります。「蒙々篁不下中遥通幽深定識百意陰清風操雅琴」と賛があり、たちこめる竹林の中は遥か深い幽玄を通るようなものですれば百の意を学び清風が琴を奏でる。となっております。 箱無 高さ約174.5cm 幅約38.5cm ¥75,000(税込)
--	--

「吸盡西江水」 休々斎筆  藪内流10代休々斎宗匠筆の一行で「吸盡西江水」となっております。中国唐代の龐居士が馬祖禪師に参禅した際に悟りとは何か、と問うた時に「一口に西江の水を一滴も残さずに飲み干せばそれを教えよう」と答えた逸話より伝えられた言葉です。休々斎門人、茶人の識箱。 識箱 高さ約197cm 幅約48cm ¥100,000(税込)	竹に月画讃 比老斎筆  藪内流6代比老斎竹陰宗匠筆の月に竹画讃になります。「送毫霜葉動冷手烟梢成苦節奉方質萬君心迹情」とされ寒竹の伸びる姿が帝王学のことを詠っており霜葉の揺れるような寒さが竹の節を作り、君子の心と情が方を奉じて万の質を成すとなります。竹は伸び方の実直さ、空洞の姿を虚心坦懐とし困難に屈しない精神の強さを示しています。 桐箱 高さ約154cm 幅約25cm ¥250,000(税込)
--	--

	大徳寺三玄院長谷川大真和尚作茶杓 銘「知足」 大徳寺三玄院長谷川大真和尚作の茶杓で銘を「知足」とされています。「知足」は、「足るを知る者は富む」が由来の自分の境遇に満足し、不平不満を持たずに今の自分に満足する。といった言葉になります。さりげない染みの美しい茶杓です。 共箱 長さ約18.5cm ¥40,000(税込)
	青々斎宗匠作茶杓 銘「千歳之友」 数内流13代青々斎宗匠作の茶杓で銘を「千歳之友」となっております。千歳（ちとせ）は「鶴は千年、亀は万年」の言い伝えにちなんだ縁起の良い言葉とされてます。 共箱 長さ約18.5cm ¥60,000(税込)
	猗々斎宗匠作茶杓 銘「業平」 数内流12代猗々斎宗匠作の茶杓で銘を「業平」とされています。業平(なりひら)、在原業平は平安時代の歌人で六歌仙の一人です。皇族出身で和歌に秀で、美男子としても知られていました。そのため様の良いことからナリヒラの名の付いた植物もあります。「伊勢物語」の主人公のモデルとも言われています。 共箱 長さ約18cm ¥80,000(税込)
	猗々斎作茶杓 銘「祥風」北野社紅梅材を以て 数内流12代猗々斎宗匠の箱の茶杓で銘を「祥風」となっております。北野天満宮の梅材を作って作られた茶杓です。祥風はめでたいときに吹く風のことを指し、北野天満宮が「梅」と深い関わりを持つのは、御祭神である菅原道真公が梅をこよなく愛したためです。道真公は梅の花を愛で、それにちなんで「飛梅伝説」が語り継がれています。 共箱 長さ約18.5cm ¥88,000(税込)
	松月和尚作榎木茶杓 金毛閣下材を以て 透月斎箱 大徳寺418世江戸後期の僧侶である宙宝宗宇和尚作の茶杓で大徳寺の山門である金毛閣の一部であった榎材を使って作られた茶杓になります。榎はやや重く硬い木材のため耐久性が高くとくに白蟻にたいして抵抗性があるので建材として重宝されました。透月斎宗匠の箱になります。 共箱 長さ約18.5cm ¥120,000(税込)
	桂隠斎作茶杓 銘「芦田鶴」 数内流7代桂隠斎竹翁宗匠作の茶杓で銘を「芦田鶴」となっております。「芦田鶴」（あしたず）は葦の生える水辺にいる鶴の別名であり、たたずむ姿が多くの人々の心に響く風情を与えたため多くの歌にも詠まれています。茶杓も桂隠斎宗匠の茶杓らしく選び抜かれた美しい樋の竹で削られています。 共箱 長さ約17.5cm ¥180,000(税込)

	大徳寺古材丸一文字香合 中村祖順老師花押 表斎作 大徳寺古材の丸一文字香合で大徳寺513世中村祖順老師の花押となっております。塗師の2代前端春斎作。 共箱 直径約7.5cm 高さ約2.5cm ¥20,000(税込)
	金彩浜松末広香合 畦地他喜翁作 金彩浜松蒔絵末広香合で塗師の畦地他喜翁（あぜちたきお）の作です。美しい浜松の意匠が金の濃淡で蒔絵されています。 共箱 縦約4.5cm 横約9.5cm 高さ約2cm ¥28,000(税込)
	輪島塗乾漆茄子香合 充雅作 輪島塗の乾漆茄子香合で輪島塗の塗師である川岸充雅作になります。内梨地の丁寧な仕事に外側の鈴虫の蒔絵が季節を知らせています。 共箱 縦約4.5cm 横約9.5 高さ約4cm ¥35,000(税込)
	七夕蒔絵香合 幸斎作 山中塗りの塗師である竹内幸斎作の七夕蒔絵香合になります。七夕は奈良時代の貴族社会で金銀の針や色糸などを供えて天の二星に織物技術の向上を乞い願う儀礼でした。それがやがて書や詩歌をはじめ、技芸全般の上達を願う行事へと展開していきます。室町時代の文献には、将軍が梶の葉に歌を書いて屋根に上げたとあり、短冊の原型とされています。 共箱 直径約8cm 高さ約3cm ¥40,000(税込)
	神輿香合 東斎作 塗師の丸山東斎作の神輿香合になります。大変可愛らしく意匠の凝らされた香合です。お祭りの時期や神社様などのお茶会でお使い頂けます。 共箱 縦約9.5cm 横約4cm 高さ約8.5cm ¥58,000(税込)
	菊桐竹香合 透月斎在判・箱 数内流11代透月斎宗匠在判の菊桐画竹香合になります。竹の皮部分を取り去った侘びの香合です。数内流の門弟であった乾梅亭の焼き印が箱にあります。 共箱 直径約7.5cm 高さ約2.5cm ¥68,000(税込)

	小及台（常真棚） 掻き合わせ朱塗りの小及台になります。箱には「有楽好常真棚」とあり常真棚と小及台は同じものとされています。 共箱 縦約26.5cm 横約33cm 高さ約37cm ¥40,000(税込)
--	---

	桐木地帛紗棚 方斎作 桐木地の藪内好の帛紗棚になります。指物師の羽栗方斎の作。 共箱 縦約27cm 横約30cm 高さ約46cm ¥50,000(税込)
--	---

	雲脚棚 藪内好の雲脚棚になります。藪内家にある利休より拝領した茶室「雲脚」の額も瓢型をしておりその意匠より作られた棚になります。 紙箱 縦約27cm 横約33cm 高さ約36cm ¥50,000(税込)
--	--

	輪島塗 小及第 清松作 輪島塗の小及台で塗師の山口清松の作となっております。真塗で角面取りなど唐物の意匠が端々に見られます。 共箱 縦約27cm 横33.5cm 高さ約38cm ¥68,000(税込)
--	---

	山里棚 橋口宗栄作 猗々斎箱 藪内流の塗師である橋口宗栄作の風炉用の山里棚で藪内流12代猗々斎宗匠が箱裏に「家伝の写し」と書かれています。 共箱 縦約26.5cm 横約33.5cm 高さ約29.5cm ¥88,000(税込)
--	---

	壺蘆棚 藪内流7代桂隠斎宗匠好みの台目棚である壺蘆棚です。壺蘆棚は西本願寺の文如上人の居間であった胡蘆庵の欄間の透かし彫りを拝領し考案された棚です。 紙箱 縦約45.5cm 横約87.5cm 高さ約56.5cm ¥140,000(税込)
--	---

	鑄銅印材蓋置 鑄銅印材蓋置になります。印材は藪内流七種蓋置の一つになります。 桐箱 縦約5.5cm 横約5.5cm 高さ約5cm ¥15,000(税込)
--	---

	九谷焼色絵三つ人形蓋置 九谷焼の色絵三つ人形になります。時代の九谷で唐子の表情が豊かで可愛らしい蓋置です。少し直径は大き目です。 共箱 直径約6.5cm 高さ約5cm ¥25,000(税込)
--	--

	国旗蓋置 矢口永寿作 九谷焼の陶工である初代矢口永寿、清々軒作の国旗蓋置になります。日の丸の意匠で万博やオリンピックなど楽しい趣向や正月等にお使いいただけます。 共箱 直径約6cm 高さ約5cm ¥30,000(税込)
--	--

	青磁写夜学蓋置 久世久宝作 猗々斎箱 青磁写しの夜学形蓋置で久世久宝の作となっております。夜に学問をする際、机上を照らす灯明の火皿の台を模したもので猗々斎宗匠が箱書きを残しており尚庵の好みとなっております。 共箱 直径約6cm 高さ約5cm ¥38,000(税込)
--	---

	末広形蓋置 十三軒吉向作 猗々斎箱 吉向十三軒（きっこうじゅうそうけん）作の黄交趾末広形蓋置で藪内流12代猗々斎宗匠が箱書きをされています。末広がりの意味を持つ縁起物の蓋置です。 共箱 直径約6.5cm 高さ約5.5cm ¥35,000(税込)
--	---

	唐銅蓮葉蓋置 村田耕閑作 古くは藪内流の鋳物師であった村田耕閑作の唐銅蓮葉蓋置になります。大変精巧な蓋置になります。 共箱 直径約6cm 高さ約4cm ¥50,000(税込)
--	--

祥瑞写鉢 青々斎箱



京焼の大吉窯の作の祥瑞写し鉢になります。
藪内流13代青々斎宗匠の箱。

共箱 直径約23cm 高さ約6.5cm
¥20,000(税込)

朱掻き合せ塗菓子器 橋口宗栄作



朱掻き合わせ塗りの菓子盆で藪内流の塗師である橋口宗栄の作となっております。樺木地の挽きの菓子器になります。

共箱 直径約24cm 高さ約3cm
¥30,000(税込)

宗和好銘々菓子盆 5客



金森宗和好みの銘々菓子盆になります。金森宗和は江戸初期の茶人で優美な茶風は公家に好まれ、「姫宗和」とよばれました。低めの縁高のような形状をしておりシンプルで機能的です。

共箱 縦・横約18.5cm 高さ約3cm
¥40,000(税込)

菊形砂張盆 村田耕閑作



古くは藪内流の鋳物師であった村田耕閑作の菊形砂張盆になります。打ち出しの波型が美しい菓子器です。

共箱 直径約23.5cm 高さ約2cm
¥45,000(税込)

薩摩杉青海盆 藪内節庵箱



薩摩杉の青海盆で藪内節庵の箱となっております。藪内節庵は9代藪内紹智の次男で、10代休々斎の養子になります。薄造りで挽きの技術の光る菓子器です。

共箱 直径約21.5cm 高さ約2cm
¥50,000(税込)

砂張写菓子盆 透月斎箱



砂張写の菓子盆で藪内流11代透月斎宗匠の箱となっております。蓋裏には「南蛮御青銅写菓子盆」とあり写しです。手に持っても中々気がつきませんが漆の作品です。

共箱 直径約26cm 高さ約2cm
¥85,000(税込)

覆輪青海盆 尚涛斎作



銀覆輪の青海盆で金沢の塗師である中村尚涛斎作になります。木目が美しく落ち着いた色味のため色鮮やかな干菓子が映えるかとおもいます。

共箱 直径約24cm 高さ約2cm
¥20,000(税込)

茄子の絵瀬戸志野鉢 大谷尊由作



藪内流11代透月斎宗匠の門下で真宗本願寺派第21世法主・光尊(明如)の四男である大谷尊由の作の茄子の絵瀬戸志野鉢になります。尊由は日本画家の井口華秋を師事していたため絵も大変うまく多才です。

共箱 縦約16cm 横約18.5cm 高さ約8cm
¥50,000(税込)

大谷尊由絵付樺菓子盆 紹光箱



大谷尊由絵付けの樺菓子盆で藪内流12代狩々斎宗匠の若宗匠時代である紹光の箱書きで箱根の奈良屋にいった際に求めた物に絵付けを行ったものと記されています。

識箱 直径約23cm 高さ約2cm
¥75,000(税込)

青漆妻紅縁高重 表哲作



青漆妻紅の縁高重で塗師の表哲の作となっております。表哲は塗師木村表斎の弟子で後に古儀茶道藪内流の門弟となり、漆匠・宗栄の名を頂くことになります。現代は木村表哲を継いでいる塗師もおり別の作家となっています。

共箱 縦・横約20cm 高さ約7.5cm
¥55,000(税込)

藪内好 山挽き椀 6客



藪内流の好みの箸洗いで山挽き椀となっております。山挽きとは粗野な形に作ったというもので千筋の挽き目の残った状態の作品になります。古くはこの作り方が多かったようですが現在の機械化が進んだ中では作れる職人も少なくなってしまったようです。薄造りの良作です。

桐箱 直径約6.5cm 高さ約8cm
¥70,000(税込)

桂隠斎好写 三田青磁梅形向付10客 節庵箱



藪内流7代桂隠斎竹翁好みの三田青磁梅形向付で藪内節庵の箱となっております。三田青磁は江戸後期から昭和初期まで盛んに作られその時代では難しかった青磁の釉薬の扱いが長けており良作を多く残しています。10客割れ欠けなし。

共箱 直径約14cm 高さ約4.5cm
¥140,000(税込)

唐物手付籠花生 猗々斎箱



藪内流12代猗々斎宗匠箱の唐物籠花入れになります。網込みの細かい時代の乗った竹籠になります。少し小ぶりな花入れですが侘びた風合いが野花に合いそうです。

共箱 直径約15cm 高さ約17cm
¥40,000(税込)

瓢花入 銘「ほし柿」透月斎箱



藪内流11代透月斎宗匠の箱の瓢花入れで銘を「ほし柿」となっております。箱には「干柿のひびよやせゆく冬の窓」とされており干し柿が過ぎゆき変わりゆく季節の風情を枯れ瓢の姿とともに詠われています。

共箱 直径約10cm 高さ約45cm
¥85,000(税込)

備前焼メ切花入 銘「苔筵」透月斎箱



備前焼のメ切花入れで藪内流11代透月斎宗匠が銘を「苔筵」とされています。メ切は口造りの絞った形状の事でしょうか。苔筵（こけむしろ）は「苔が一面に広がる様子」を表す言葉で静寂や長い年月の経過を象徴します。

共箱 直径約13cm 高さ約27cm
¥120,000(税込)

鉈籠花入 休々斎箱



藪内流10代の休々斎宗匠箱の鉈籠花入れになります。鉈籠花入は千利休が鉈を入れる籠を花入れとして見立てたことに由来する、竹製の籠で、扁平な形状が特徴です。武骨な中にも風情があり野の花を入れることで茶室の雰囲気を一層引き立てます。

共箱 縦約6cm 横約14cm 高さ約24cm
¥80,000(税込)

古銅写経筒花入 村田耕閑作 透月斎箱



古銅写しの経筒花入れで旧くは藪内流の鋳物師であった村田耕閑の作になります。どっしりとした鋳物の花入れで古銅の風合いを良く模しています。藪内流11代透月斎宗匠の箱。

共箱 直径約9.5cm 高さ約25cm
¥140,000(税込)

桂隠斎作一重切花入 銘「菜舞」



藪内流7代桂隠斎竹翁作の一重切花入れで銘を「菜舞」とされています。菜舞は菜衣という質素な衣服をまとい舞うことで孝養（親を敬い養うこと）を象徴する舞です。雪割れの姿の美しい堂々とした一重切です。

共箱 直径約11cm 高さ約35cm
¥180,000(税込)

唐銅鐳口杓立 善勝作



藪内好の唐銅鐳口杓立で高岡の鋳物師である善勝作になります。鐳口はその名の通り刀の鐳を模した杓立てになります。

共箱 直径約7cm 高さ約16.5cm
¥38,000(税込)

竹翠好銚子 一双 永楽和全作 休々斎箱



藪内流10代休々斎竹翠好みの太鼓胴銚子の一双で12代永楽善五郎和全の作となっております。流儀の好みの鋳物の太鼓胴銚子を陶器で永楽和全に形状を模させたものです。弦と蓋裏には鋳物が使われており意匠が凝らされています。

共箱 縦約11cm 横約15cm 高さ約14cm
¥80,000(税込)

煤竹風炉先



煤竹の風炉先になります。風炉の時期、暑さが盛りのころにお使いいただくと涼を感じていただけるかと思います。

紙箱 縦約3.5cm 横約94cm 高さ約54.5cm
¥35,000(税込)

藪内好片落とし風炉先 猗々斎在判



藪内流好みの片落とし風炉先で藪内流12代猗々斎宗匠の在判があります。風炉先の向こう側からも点前がよく見えるため小間・広間両方のお茶を大事にしている藪内流らしい好み物です。

紙箱 縦約84.5cm 高さ約28cm
¥60,000(税込)

切箔押風炉先 藪内節庵箱



藪内節庵書きの切箔押風炉先になります。金箔を細かく切り装飾として貼り付けた意匠です。藪内節庵は茶室建築や庭園設計にも精通し国宝「如庵」の移築にも携わりました。また、篠園会（じょうえんかい）を主宰し、野村得庵や村山玄庵などの財界人との交流を深め近代茶道の隆盛に貢献しました。共箱 縦約3cm 横約93.5cm 高さ約75.5cm

¥45,000(税込)

折り畳み文台



折り畳み式の踏み台になります。待合の芳名台等にもお使いいただけます。

紙箱 縦約30cm 横約60cm 高さ約25.5cm
¥20,000(税込)